

広域化でさらなる防災力を

中央ブロック消防広域化に係る調印式



(左から) 署名、調印を行う住永町長、幸山市長、日置村長

熊本市役所で6月24日、中央ブロック消防広域化に係る調印式が行われ、益城町と西原村がそれぞれ、熊本市との間における消防事務の委託に関する協議書に調印を行いました。

調印された協議書は、両町村の常備消防事務を市消防局に委託する内容で、式には幸山政史熊本市長、日置和彦西原村

長、住永町長の3人が出席しました。

協議書に署名、調印を終え、住永町長は「行政として町民の安心・安全を守るこれが一番大事。3年数か月にはわたり協議を重ねてきたこの広域化で、防災力のさらなる向上を図りたい」と決意を新たにしました。幸山市長は「熊本市長として重責を感じている。来年4月からは市消防局の高度な救助隊や資機材を活用し、住民の皆様の安心安全なくらしに役立たせたい」と決意を述べました。

平成26年4月から消防署は、新体制に移行しますが、職員53人は市消防局からそのまま採用されます。また、寺迫の高遊原南消防署と、西原村小森の西原出張所も維持されます。



調印を終えた協議書を手を持つ住永町長と幸山市長

助け合える地域に

災害ボランティアセンターサポーター

町公民館講堂で7月6日、町社会福祉協議会が主催した第1回「災害ボランティアセンターサポーター養成講座」が開催されました。

町で災害が発生した場合、地域の力を活かしながら多面からのボランティアを受け入れる体制が速やかにできるように訓練を行い、災害に対する住民意識の向上や災害に備えることを目的に開催。予定していた定員を超える50人が受講しました。

永年、災害発生地域に設置される災害ボランティアセンターの支援に携わった、県社会福祉協議会ボランティアセ



受講者へあいさつをする住永会長



県社会福祉協議会の江口氏の体験談を聞く受講者のみなさん

ンター所長の江口俊治氏がボランティアの立場や現場で役立つ道具などをわかりやすく説明。「困ったときはお互いさま。遠慮や我慢をしないで『手伝って』『助けて』と言い合える地域をつくってほしい」。江口氏は自身が現場で体験したことを踏まえ、その時感じたことを受講者に伝えました。